

【解答例】

I 浅岡さんの体験は、医師が通常の方法では診断がつかないとき、患者がたとえ身体の不調を訴えたとしても、その患者は治療する対象でなくなるということであり、その患者への態度は倫理的に問題があるというものであった。この体験に対する浅岡さんの思いは、自分の辛い身体症状を医療者から心理的なものとして扱われ、身体の疾患であることを認められず、人として、生活者として、研究者としての自分自身を踏みにじられるような思いであった。

II 身体の不調に常に必ず適正な診断がつくとは限らない。治療効果がなく身体の不調が続くとき、すべて心理的なものとして、医療者が治療の対象ではない扱いをすることは、適切とは言えない。浅岡さんの体験は、こういった例である。この場合に求められる看護職の姿勢は、「患者の訴えることを疑わずに、患者の身体の不調とその思いに沿いながらケアをする」である。

【出題の意図】

看護において患者の理解は基本であり重要である。提示した闘病記の読解から患者をどのように理解しようとするのかの姿勢をみるものである。また、医療現場における患者と看護師の関係を問うものである。